

教養教育院の新設

2016年(平成28)4月

2014(平成26)年の徳島大学改革プランにおいて、学位授与方針(DP)に基づいた全学共通教育と専門教育の一体化教育を担保する制度組織の必要性が示され、アウトカム基盤型カリキュラムを構築し、そのプロセスと成果を常に検証し、継続的に教育の質を改善するプログラムを構築することが必要とされた。現代社会の諸要請に対応する教養及び教養教育の課題として、①グローバルな取り組みを担う豊かな教養、②「メディアの地殻変動」に対応するメディア・リテラシー、③「知の地殻変動」に対応する倫理と価値の再構築、④現代社会の諸問題に対応する市民としての教養の形成が挙げられた。徳島大学の課題として、教養教育(共通教育)の点検評価及び教育課程の体系化・構造化の推進の必要性が指摘され、グローバル化や地域課題等、緊急の課題として具体的な分野を含む内容や方法が提言された。運営組織に関しては、総合科学部が中心部局として全学共通教育を担当する考え方を離れ、

「責任部局」を全学的立場から設置することになった。

全学的な研究部組織・教育組織(学部・学科)再編に伴い、2016(平成28)年4月、全学共通教育の責任部局として教養教育院が設置された。教員組織としては、初年度は総合科学研究部の教養教育部門として設置されたが、2017(平成29)年度から研究部と同様の教員組織に位置づけられた。教養教育の実施に関しては各学部教員が担当する全学出席方式をとることになった。授業科目を8科目群に再編成するとともに、学部学科固有の普遍性の高い教育を含めた双方向型、体験型、反転授業等の多様化を進め、アクティブラーニング入門科目として、SIH道場(Strike while the Iron is Hot)を開設した。語学教育の強化のために語学マイレージ・プログラムを2018(平成30)年度から開始した。これらによって、徳島大学の強みをさらに強化するとともに、社会の要請や状況に対応した教育体制を構築することとなった。

